

歴史（大崎広小路）

「広小路」とは、今から 360 年余も前の江戸時代の**明暦の大火**（1657 年）をきっかけに、火災の類焼を食い止めるための「火除地（ひよけち）」の一つとして上野や両国などにつくられ、大道芸のほか市場ができたり盛り場として発展したところもあります。当時は「火除土手」がつけられましたが、今ではほとんど無くなっています。その後、各地につくられ「広小路」と呼ばれるようになり、太平洋戦争後の復興により更に広い街路となり整備されました。【明暦の大火：（外堀以内のほぼ全域で天守閣も含む江戸城を焼失）江戸三大大火筆頭のだが、**世界三大火災（ローマ大火・ロンドン大火）**ともいわれる】

【大崎広小路駅】は、昭和 2 年（1927 年）に、当時の池上電鉄桐ヶ谷駅（戸越銀座駅手前）の開通により終点として設置されました。しかし、翌年には五反田まで開通し僅か一年余りで終着駅の座を明け渡しました。昭和の中頃、大崎広小路駅を含む池上線の一部区間を廃止して、桐ヶ谷駅を復活させ泉岳寺までの地下鉄三田線との乗り入れ構想がありました。その後、構想はとん挫して現在に至っています。

残念ながら広小路のコッペパンの「竹パン」は店じまいしましたが、大崎広小路のランドマークと言え、**「東京簡易保険会館：ゆうぽうと」**です。マックスファクター跡地に昭和 57 年に開業した複合施設です。「ゆうぽうとホール」での代表的な催しは平成 21 年（2009 年）からの「年忘れにつぼんの歌」、平成 27 年（2015 年）の最終公演は「ウエスタンカーニバル」でした。

新しい施設は、地上 21 階、地下 3 階、高さ約 100m で令和 25 年（2023 年）春に完成する予定です。



昭和 32 年（1957 年）TOC 前

昭和 35 年（1960 年）交差点

昭和 36 年（1961 年）万年筆屋



昭和 36 年（1961 年）東急屋上から

昭和 46 年（1971 年）立正大屋上から

平成 20 年ゆうぽうと

